

一般社団法人 日本シュタイナー幼児教育協会
第 16 回定例研修会のご案内
2019 年 2 月 2 日～3 日
国立オリンピック記念青少年総合センター

テーマ

シュタイナー教育 100 年 【これまでと未来に向けて】

第 16 回定例研修会に向けて

1919年ドイツのシュトゥツガルトに初めてのシュタイナー学校ができました。

それから7年後の2016年に同じシュトゥツガルトに初めてのシュタイナー幼稚園ができました。その後シュタイナー学校、幼稚園は世界中に拡がり、100年経った現在では、シュタイナー学校を卒業した子どもたちが社会で多くの大切な役割を果たしています。日本でも初めてのシュタイナー学校や幼稚園ができて約30年が経ちました。

ドイツで始まった教育ですが、その本質は国を超え、文化を超え、違った言語を超え、そして時代を超えても、そこで生まれ育つ子どもたちの成長を支えるものであることが、わかってきました。社会の変化と共に子どもたちを取り巻く環境も大きく変わっていますが、子どもの発達のプロセスは何も変わっていません。

だからこそ、シュタイナー教育の本質は、今も子どもたちの成長を支えています。100年を迎えるこの時に、シュタイナー幼児教育の本質をあらためて確認し、これからも若い子どもたちの成長を支える保育を続けていきましょう。

日本シュタイナー幼児教育協会 代表 松浦 園

2月2日(土) 10:00~12:00

パネルディスカッション

テーマ 【日本での実践を振り返り未来につなげたいもの】

協会理事たちがパネラーとなってシュタイナー幼児教育のこれまでを振り返りつつ、未来へのメッセージを込めて今を語ります。

協会理事： 吉良創 後藤寛子 鈴木まゆみ 牧野奈巳 松浦園 宮地陽子 山西真理子

2月3日(日) 9:00~10:30

講演会 テーマ 【シュタイナー幼児教育との出会いとこれからの課題】

生まれ育った環境はいつでも子どもたちの声とそれを支える大人の懸命な姿があり、いつしか自分も幼児教育を志す者となっていて、シュタイナー幼児教育に出会いました。長年現場で保育をしてきましたがこの変化の激しい現代においてこれからの教育はどのような呼びかけをはらんでいるのかを考えたいと思います。

講演者： 後藤 健太

1964年名古屋生まれ 白梅学園短期大学卒業

1993年ドイツ ヴィッテンのシュタイナー幼稚園教員養成ゼミナールを終え帰国。

その後は母親の設立した保育園で担任と副園長として7年間勤務。父親の介護や看取りのため退職。2003年よりNPO 法人うめの森ヴァルドルフ子ども園の担任教師、理事。

分科会の紹介

2 日間で同じ分科会を選び、4 回受けていただきます。それだけに一つのテーマに集中でき、深まってゆくことでしょう。以下のうち、一つを選んでください。

① 人形劇 鈴木まゆみ 牧野奈巳

シュタイナー園で子どもたちが楽しみにしている人形劇。メルヘンの意味を学び、立ち人形を作り、上演するまで、一通りの流れを体験し、学び、作り、実践する分科会です。子どもたちの前で上演できるようになりたいですね！
立人形材料費として 500 円、当日徴収させていただきます。

② 3 歳までの子どもの育ちと親のケア 山西真理子 宮地陽子

幼稚園に入る前のこどもたちのクラス・親子クラスは、ますます必要とされてきています。シュタイナー乳幼児教育の視点から、入園前のこどもたちの成長の過程・課題を学びます。そして、皆さんが行っている遊びを共有しながら、それぞれの年齢にふさわしい遊びを体験してみましよう。また、親子クラスでの実践をもとに親の支援についても再考したいと思います。

③ キンダーハープと 5 度の歌 吉良 創

キンダーハープ(ペントニック7弦のライアー)の演奏を通し、乳幼児の音楽、5度の歌について深めます。調弦、保育での使い方も具体的にお伝えします。
キンダーハープをご持参ください。お持ちでない方はレンタル可能です。

④ ライゲン 松浦 園 後藤 寛子

シュタイナー園で行うライゲンはドイツ語で「輪になって踊る」という意味です。
子どもたちは、季節や物語の歌や詩に合わせて、歩いたり、跳んだり、拡がったり、集まったりという動きを、空間の中で楽しみます。なぜ私たちは、子どもたちと一緒にライゲンをするのでしょうか？どんなライゲンをするのでしょうか？
どのようにして、あなたはライゲンを作っていますか？子どもたちはライゲンを楽しんでいますか？
ライゲンを通して、子どもたちが何を体験するのか。そして現代に生きる子どもの成長を支えるライゲンはどのようなものでしょう。
ライゲンの本質を学びながら、共にライゲンを作り、動いてみましょう。